

平成26年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	
実施事業名	ワークショップ「Talking about SEX」	
団体代表者	高久 陽介	
事業の目的	HIV陽性者を含むゲイ・バイセクシャル男性が、自身の性行動を振り返り、他者と性について語り合うコミュニケーションを通じて、性の多様さを学び、自身の性行動に対する意識の気付きを促し、自己決定力、自立性、肯定感を高めること	
事業の達成度	これまで当団体では、「Talking about SEX」をHIV陽性のゲイ・バイセクシャル男性に限定して実施してきました。今年度は、これをゲイ・バイセクシャル男性全般が参加可能なプログラムとしてリニューアルし、マニュアルおよびツール類を整備の上、試行実施し、リニューアルしたプログラムに基づき、ワークショップ「Talking about SEX」を計3回開催しました。アンケート結果からは本プログラムの効果が確認された。	
事業実績	対象となった人数	東京 1回目：7名 東京 2回目：6名 沖縄：11名 福岡：6名 → 計30名
	具体的な活動内容	<p>(1) 既存プログラム「Talking about SEX」の参加対象者を、「ゲイ・バイセクシャル男性のHIV陽性者限定」から「ゲイ・バイセクシャル男性全般」に再設定し、従来のスタッフと協働先(予防啓発団体、当事者団体)を交えてプログラムのリニューアルを行いました。改訂したプログラムに基づき、まずはスタッフ間でプログラムを試行し、さらに必要な修正を加えました。</p> <p>(2) 2015年2月28日に東京、3月8日に沖縄、3月28日に福岡で、それぞれ本プログラムを展開しました。</p> <p>【プログラム】</p> <p>①さいしょに 歓迎のあいさつ、プログラムの趣旨説明、グラドルールの確認を行う。</p> <p>②連想ゲーム アイスブレイクとして、「SEX」で連想する様々な言葉を出し合い、参加者の多様さを互いに感じてもらう。</p> <p>③自己紹介</p> <p>④セックスのメリットとデメリット セックスについてメリットと感じていること、デメリットと感じていることをそれぞれ出し合ってもらい、お互いにそれぞれの考え方について質問したり、KJ法による作業ワークを行うことで、他者との共通点や相違点など多様さを実感してもらう。</p> <p>⑤どこまで知ってる？ 性感染症の知識テスト HIVを含めた様々な性感染症についてのテストに挑戦してもらう、答え合わせをしながらレクチャーを行う。</p> <p>⑥データでわかる！ぼくらのセックス事情 自身のセックス観や情報量などを振り返ってもらった上で、ゲイ・バイセクシャル男性の恋愛や性行動の現状についてのレクチャーを行い、男性同士のセックスにも多様な価値観がある現状を理解してもらう。</p> <p>⑦フリートーク</p> <p>⑧クロージング 本プログラムに参加してみても感想を一言ずつ述べてもらい、情報提供や相談先などの案内を行って終了。帰る前に、アンケートへの協力をお願いする。</p>